

「いきいきかがやけ！」

～保育士の資質・意欲向上に繋がる事業推進～

発表者

社福)鳥取福祉社会保育部 主幹運動指導員 上萬貴志

1、問題提議

子どもの体力低下についてはメディアでも大きな問題として取り上げられており、文部科学省の策定した運動指針においても幼児期に体を動かす習慣を身につけることの重要性が明記されている。当法人保育部では、従来から運動遊びを保育内容に積極的に取り入れてきたものの一貫性に乏しく、運動が好きで得意な子どもとそうでない子どもとの二極化が見られていた。このような中、平成25年に運動遊び事業「のびのびキッズ」を開始、筆者は法人内専属運動指導員として配置された。事業を推進する中で4、5才児における体力測定値の向上といった成果が見られた。一方、3才未満児への指導が進んでおらず、未満児クラスの保育士から運動遊びに難しさを感じているといった声や、カリキュラムの運用に園やクラス間で偏りが見られるなどの現象が見られた。

2、目的

3才未満児訪問指導の実践を通じて、3才未満児担任保育士の運動遊びに対する知識や技能の向上、意識の変容等を計り、子どもの体力面や心情面の向上につながる訪問指導の方法を確立させることを目的とする。

3、方法

- ① 対象保育士への訪問指導に関するアンケート調査結果から保育士の運動遊びに関する知識・技能の高まりや意識の変容を計りその有効性を検証した。
- ② 訪問指導の実施前と実施後における体力づくりカリキュラムの実施率や実施数の偏りを比較しその有効性を検証した。

4、成果

- ① に関して

アンケート調査結果から訪問指導実施により8割の保育士が運動遊びにまつわる知識や技能が向上したことがわかった。令和2年の方法で実践することで深い学びにつながったと回答した保育士は全体の半数に達し、体力づくりカリキュラム、動作経験の図、運動遊び集を用いた方法はより高い効果があることがわかった。

② に関して

・訪問指導実施により 3 才未満児クラスの体力づくりカリキュラム実施率が 10%程度向上した。令和 2 年の数値はさらに 10%程度上がっており、子どもたちのより多くの動作経験につながったことがわかった。特に令和 2 年は、体力づくりカリキュラムに基づき実施計画を作成したこと、保育士だけでなく指導員も実施計画作成に関わったことで、体力づくりカリキュラムに記載されている幅広い項目の実施につながったと考えられる。

・訪問指導を行なうことで、体力づくりカリキュラムの実施率が上がっただけでなく、園間、クラス間の実施数の偏りが小さくなり、万遍なく一定量の運動遊びが子どもに提供できたことがわかった。

5、課題

令和 2 年の方法で訪問指導を行なう中で、体力づくりカリキュラムの子どもの姿に合わせたアップデート、自園の運動遊びをリードしていく保育士の育成、また 3 才未満児クラスでも指導員の直接指導を行なえる実施メソッドの確立などの課題もあった。子どもたちだけでなく保育士の良い姿につながるような事業推進を指導員が先頭に立って行なっていきたい。

参考文献

スポーツ庁（2022）“令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果のポイント”
スポーツ庁ホームページ.

https://www.mext.go.jp/sports/content/20221215-spt_sseisaku02-000026462_1.pdf

文部科学省幼児期運動指針作成委員会（2014）“幼児期運動指針ガイドブック（9 分の 2）” 文部科学省.

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/05/11/1319748_3_1.pdf

鳥取福祉会保育部（2013）「年齢別体力づくりカリキュラム」社会福祉法人鳥取福祉会.
鳥取福祉会保育部（2020）「社会福祉法人 のびのびキッズ運営要綱」社会福祉法人鳥取福祉会.

文部科学省幼児期運動指針作成委員会（2014）“幼児期運動指針ガイドブック 8,9 ページ”
文部科学省.